

## 学校保健について

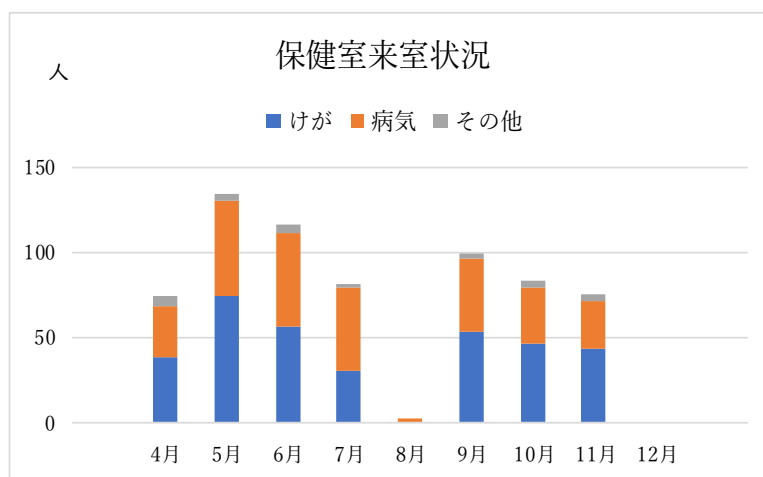
### 学校保健目標

- ・ 児童の健康の保持増進を目指し、心身の発達に応じた保健管理・保健教育を行い、健康でたくましい子供の育成に努める。

### 保健管理

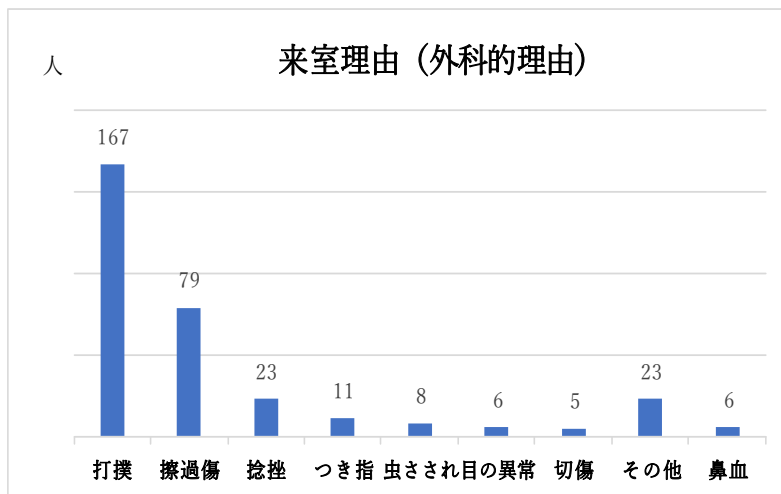
#### I 保健室来室状況

図 1



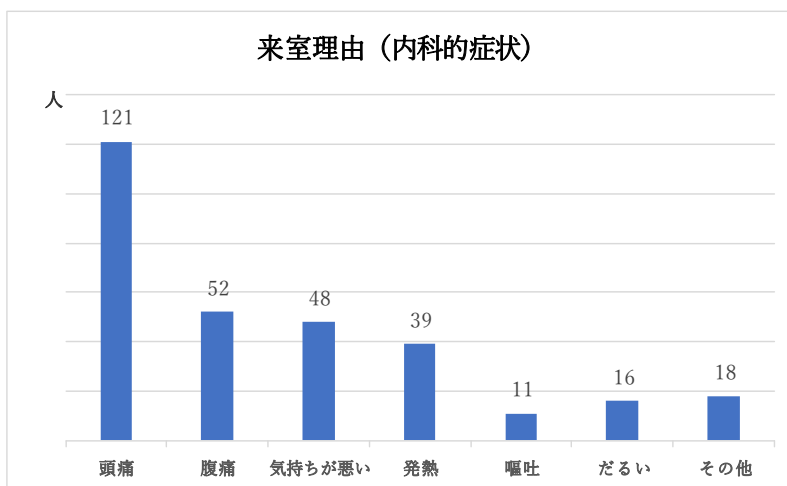
- ・ 5月のけがが、最も多い。6月～7月頃は、暑い日が続き、熱中症予防のため外遊びを控える日を設けたことで、5月よりけがの発生が減少したと考えられる。(図1)

図 2



- ・ けがの理由では打撲が1番多い。誤って校舎内外の物品や他の児童にぶつかってしまうなどのけがが多く見られた。(図2)  
業間や昼休みに、教員が校舎内を巡視したり、児童と一緒に体を動かしたりして、安全な過ごし方を呼び掛け、さらに緊急時のけがに対応できるように努めている。今後も、けがを予防するための安全な過ごし方の定着や、けがをしたときに自分でできる手当てが実践できるように声掛けや働きかけを継続する。

図 3



- ・ 内科的な理由は頭痛が1番多い。要因は、かぜ・寝不足・目の疲れなどが考えられる。2番目に多い腹痛では、便秘疑いの児童も時々見られる。(図3)

## 2 スポーツ振興センター利用状況（11月現在）

### （1）月別利用件数

表1

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
2	0	0	0	0	2	5	0	9

### （2）利用内容（一部）

表2

時間	場所	傷病名	概要
休み時間	校庭 (ブランコ)	歯の垂脱臼	友達が乗っているブランコを後ろから押していた際、乳歯にブランコが当たってしまった。 ⇒人が乗っているブランコを押さないことを共通理解した。
体育の授業	体育館	骨盤打撲	体育館で台上前転の着地の際に、足から着地することができずマットに腰を強く打ってしまった。

## 3 定期健康診断結果について

（R5年の栃木県学校保健統計調査結果は資料作成時点では未公開のため、R4年の結果と比較）

### （1）本校児童の体位について

学年別平均値及び県・全国平均との比較



\*県平均…R4年 学校保健統計調査報告書より

\*表中の下線は県平均より上回っているところ

表3

性別	学年	身長 (c m)		体重 (k g)	
		校内平均	県平均	校内平均	県平均
男子	1年	<u>118.1</u>	116.5	20.8	21.8
	2年	122.2	122.6	24.2	24.7
	3年	126.8	127.8	27.1	28.3
	4年	<u>134.1</u>	133.7	<u>33.3</u>	32.0
	5年	139.3	139.7	<u>38.6</u>	36.6
	6年	145.4	145.8	<u>41.1</u>	40.5
女子	1年	114.8	115.7	20.0	21.4
	2年	120.9	121.9	<u>24.7</u>	24.5
	3年	126.1	127.7	26.7	27.7
	4年	134.0	134.2	29.1	31.4
	5年	141.6	141.7	34.0	36.2
	6年	146.1	147.6	<u>43.5</u>	40.9

**男子** 1・4学年の身長、4・5・6学年の体重が県平均を上回っているが、特に5学年の体重の上回り方が大きい。

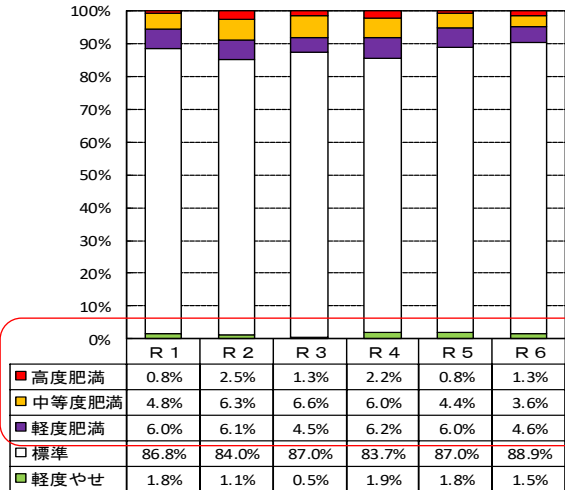
**女子** 2・6学年の体重が県平均を上回っているが、特に6学年女子の体重の上回り方が大きい。

## (2) 本校児童の栄養状態について

- ・肥満傾向児（肥満度が20%以上）の出現率は、全校で9.5%（昨年度より－1.7%減）である。（図4）

図4

### 栄養状態 推移



高度肥満 肥満度50%以上

中等度肥満

肥満度30～50%未満

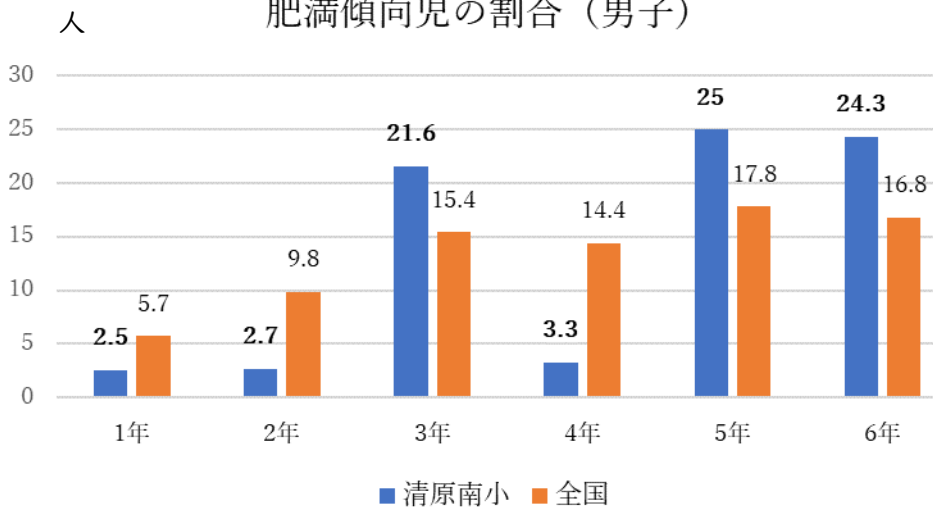
軽度肥満

肥満度20%～30%未満

・中等度以上の肥満傾向の児童については  
学校医の助言をふまえ専門医への指導を勧  
めている。

図5

### 肥満傾向児の割合（男子）

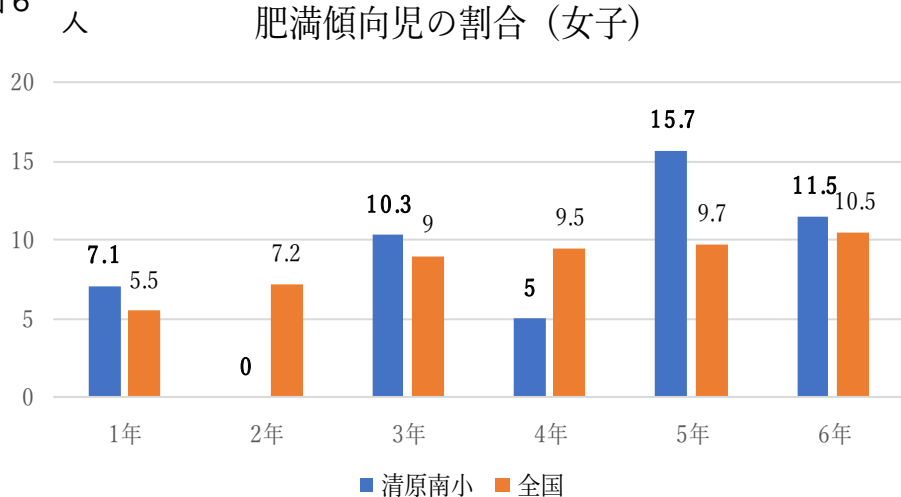


- ・学年男女別にみると、全国平均と比べて肥満傾向児の割合が高いのは3・5・6年男子、1・3・5・6年女子である。（図5・図6）

- ・食事内容を工夫したり、運動を促したりするなど、積極的に取り組んでいる家庭もある。保護者の協力が必要なものであり、とてもデリケートな問題なので、どのように本人・保護者にアプローチをしていくか課題となっている。

図6

### 肥満傾向児の割合（女子）



- ・本校では「パワーアップタイム」を設定して休み時間の外遊びを推奨している。

### (3) 本校児童の視力の状態について

- ・県・全国の裸眼視力の割合を比較すると、裸眼視力 A の児童の割合は、県・全国値を上回った。

(表 4)

- ・裸眼視力 A の児童は、近年減少傾向であったが、昨年度と比較すると、ほぼ変化がなかった。

(表 5)

- ・学年別で比較すると、学年が上がるごとに視力 B ～ D の児童の割合が高いことが分かる。(図 7)
- ・視力 A の児童について、R 元年と R 6 年の 1 学年を比較すると、R 元年は、視力 A の児童が 90.9% だったが、R 6 年は 77.6% であり著しく減少している。入学前の視力低下が見られるため、就学時健診での早期発見や受診勧奨を継続していく。

本校児童の裸眼視力と県・全国値との比較

表 4

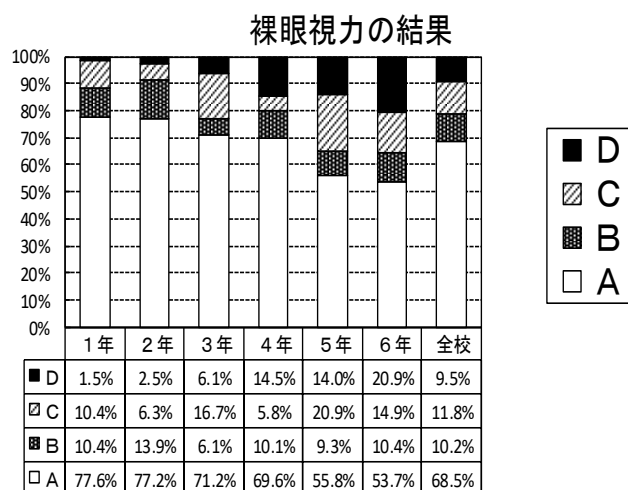
	A 1.0 以上	B 0.7～0.9	C 0.3～0.6	D 0.3 未満	視力 B C D 合計
清南小 (R 6)	68.5%	10.2%	11.8%	9.5%	31.5%
県 (R 4)	63.7%	10.2%	13.8%	12.3%	36.3%
全国 (R 4)	62.1%	12.0%	13.9%	12.0%	37.9%

本校児童の裸眼視力 過年度との比較

表 5

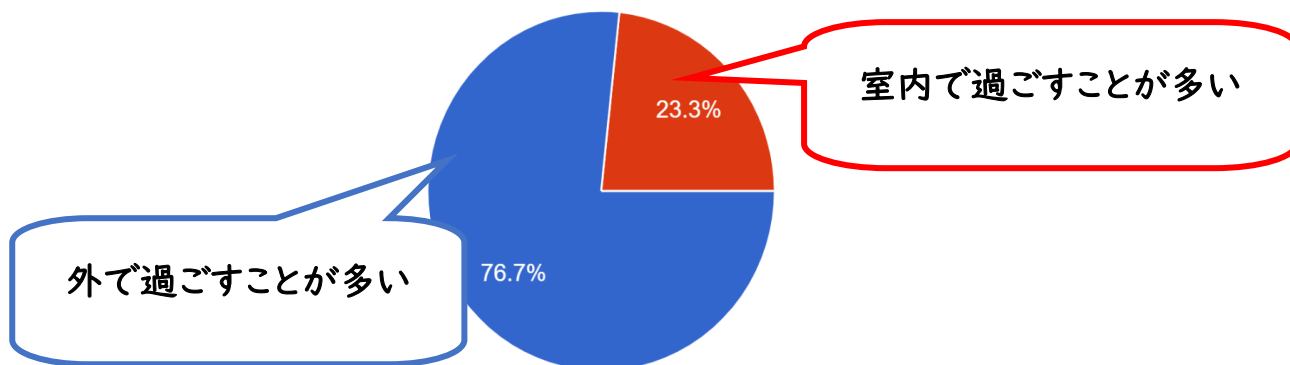
	A	B	C	D	視力 B C D 合計
清南小 (R 6)	68.5%	10.2%	11.8%	9.5%	31.5%
清南小 (R 5)	68.7%	9.1%	12.5%	9.7%	31.3%
清南小 (R 4)	71.4%	10.8%	11.3%	6.5%	28.6%
清南小 (R 3)	72.1%	8.5%	12.2%	7.2%	27.9%
清南小 (R 2)	74.4%	6.3%	12.4%	6.9%	25.3%
清南小 (R 元)	77.5%	7.0%	8.3%	7.3%	22.6%

図 7

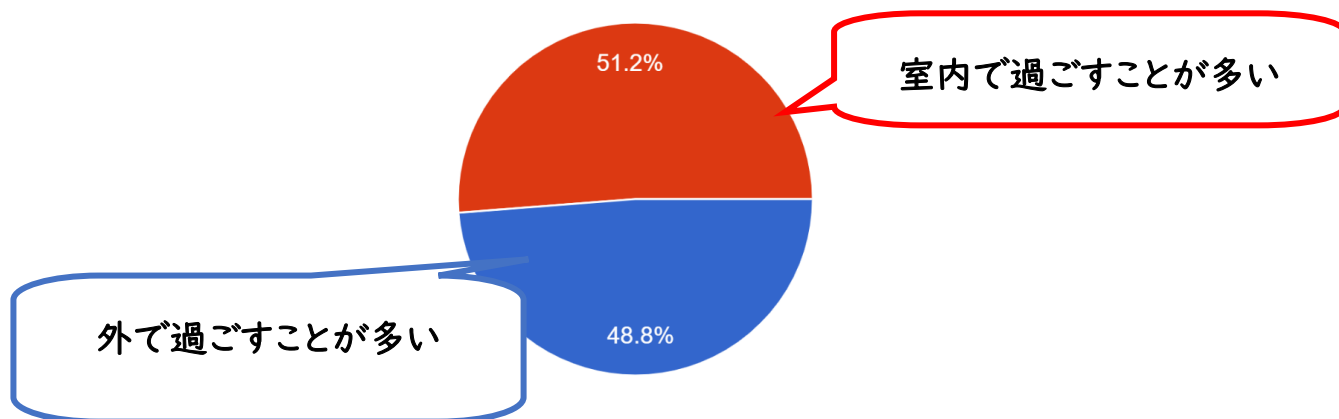


- ・裸眼（矯正）視力 B ～ D の児童に対し受診勧告をしている。P 20「キラキラウィークのアンケート」からデジタル機器の使用時間を決めていない児童が約 30% いることや、「休日は、室内で過ごすことが多い」児童が約 50% いることがわかる。休息時間を作りながらデジタル機器を使用する、外遊びの時間を作る等、目の筋肉の緊張が続いた状態にならないように予防することが必要である。今後も、家庭と連携して児童が健康のために実践できる取組が必要だと考える。

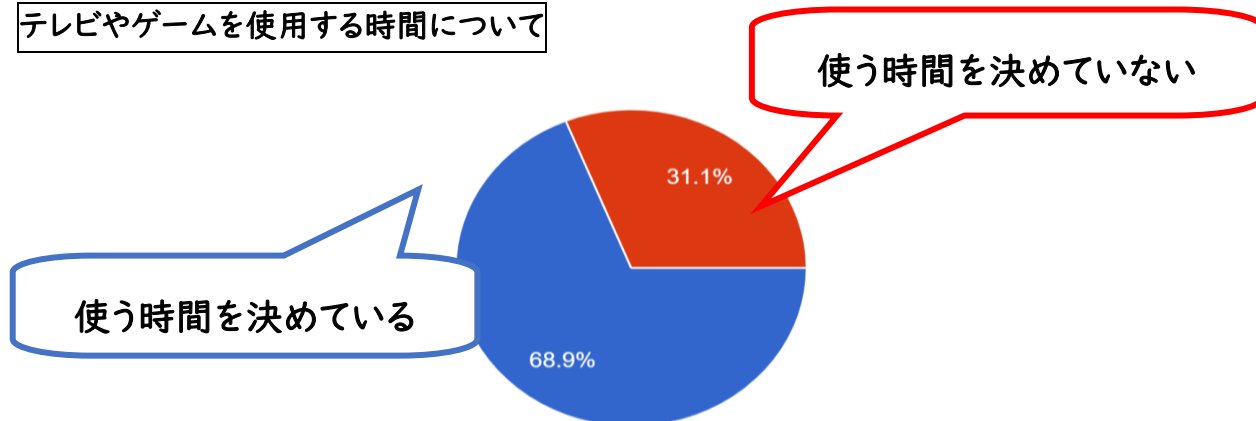
学校の休み時間の過ごし方について



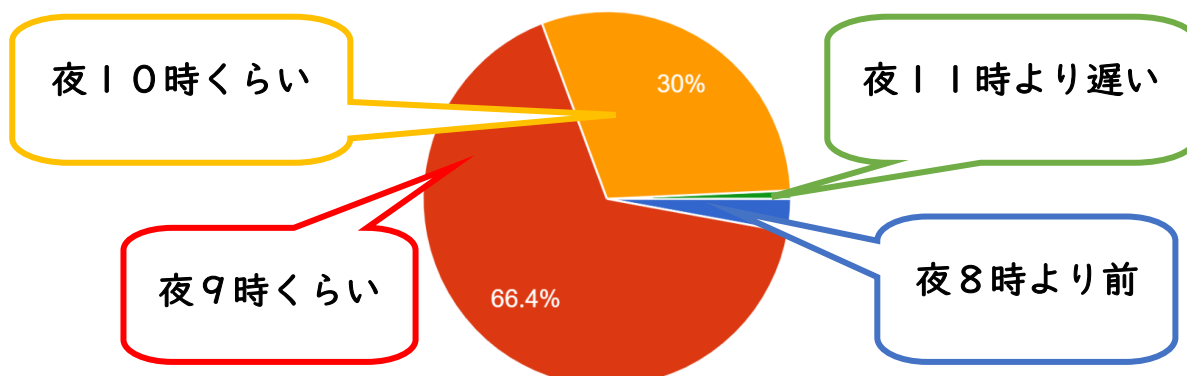
学校がおわったあとや、休みの日の過ごし方について



テレビやゲームを使用する時間について

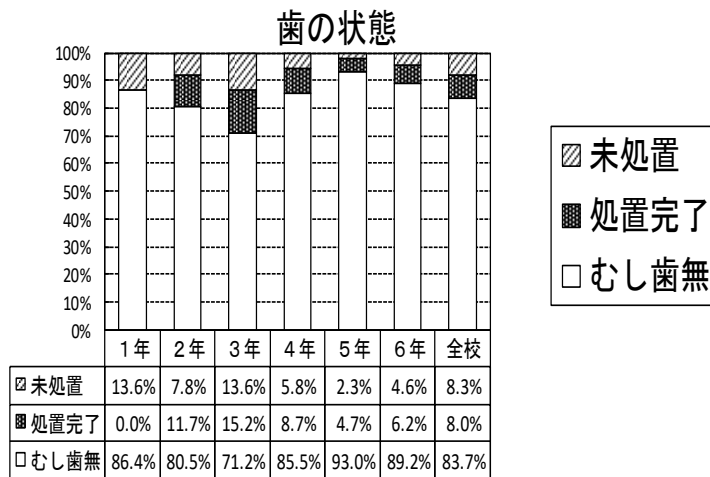


寝る時間について



#### (4) 本校児童の歯の状態について

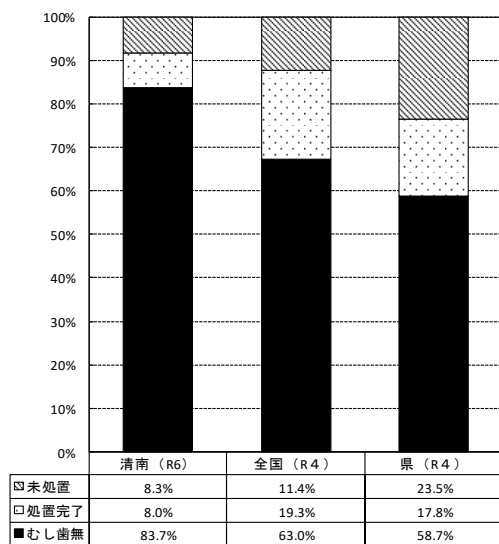
図8



- ・歯の状態を学年別で比較した。むし歯無しの児童の割合は全校で約8割と高い結果となったが、低学年で未処置者が多い。家庭には早期治療を勧めている。(図8)

#### 歯の状態 県・全国平均値と比較

図9



- ・県および全国値を比較すると、本校全体のむし歯無しの児童が県・全国値を大きく上回った。(図9)
- ・丁寧な歯みがき習慣を定着させるため「きらきらウィーク」を実施している。特に寝る前の丁寧な歯みがきや、保護者の方による仕上げみがきの実施を呼び掛けている。今後も継続していきたい。

#### 未処置者・要注意乳歯を保有している児童の内訳(人)

表6

	乳歯の未処置 歯がある児童	永久歯の未処置 歯がある児童	要注意乳歯を保有 している児童
1年	9	0	6
2年	6	1	7
3年	9	0	6
4年	4	0	6
5年	1	2	5
6年	1	0	2

- ・特に低学年の乳歯の未処置者が多いことがわかる。(表6) 乳歯のむし歯が永久歯に与える影響等を、今後も発信していきたい。
- ・要注意乳歯とは「乳歯の後ろから永久歯が生えてきている状況で永久歯の歯並びに影響を与えようとしている乳歯のこと」で、家庭に受診を勧めている。

## 2 感染症対策について

- ・ 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～（文部科学省）
- ・ 学校における新型コロナウイルス感染症に係るガイドライン（宇都宮市教育委員会）

等に基づき、対策を検討して下記のようなことに取り組んでいます。

### （１）感染症対応で実施している主なこと

- ・ マスクの着用は個人判断（外の活動や熱中症予防等のため天候や活動内容により外すよう促す）
- ・ 手洗い，うがい，ハンカチ持参の呼びかけ
- ・ 給食指導（当番児童の体調把握，食事マナーとして大声での会話は控えるようにする等）
- ・ 環境面の配慮（常時換気・サーキュレーターの利用・衣服の調節・手洗い場の衛生管理）
- ・ 熱中症指数に基づいた活動の実施，抵抗力を高めるための指導

### （２）臨時休業の対応

- ・ 感染の拡大がある場合は学校医と相談し，臨時休業措置等，必要な措置をとることがある。  
その場合は，速やかに保護者にさくら連絡網でメール配信をする。

## 3 保健活動・保健教育について

### （１）児童保健委員会活動の紹介

- ・ 手洗い場の清掃・石鹸補充
- ・ 歯みがきティーチャー

（児童への歯みがきのポイントをお話する）



歯みがきティーチャー

- ・ 手洗いや換気を促すための放送
- ・ わくわく手あらいフェスティバル  
（学校薬剤師・児童給食委員会・  
図書館司書との連携）



手洗いチェッカー体験

学校薬剤師の先生からハンカチの衛生について助言をいただいた。

### （２）外部講師による健康教室

#### 3年 歯の健康教室

歯科衛生師が、正しいブラッシングについて模型を使用して見本を見せてくださっている様子



保護者の方にも参観していただき、正しい歯みがきの仕方について親子で学ぶ機会となった。



### （３）養護教諭・学校栄養士の連携

- ・ キラキラウィーク・朝ごはん食べよう週間の実施
- ・ ICT を活用したアンケートを基に保健・食育指導の資料作成

### （４）職員研修



・心肺蘇生法・AED講習



・食物アレルギー対応研修  
（アドレナリン自己注射薬の使い方・職員の役割分担）